

地域の基幹産業に不可欠な運送業者を、外部支援機関等と連携して復旧支援

(石巻信用金庫)

【概要】

本件は、震災により事業の根幹である車輛や配送センターに甚大な被害を受け、さらに主要荷主である地域の水産加工業も被災している状況での支援事例。

各種補助金や外部支援機関との連携による資金調達等によって山積する課題を解決する支援計画を策定。当面の間の拠点となる営業所等の建設を軸とする当社の復興計画を後押し。

背景と経緯

A社は地元の水産加工業等を荷主とし、最新の運行管理システムや抗菌加工車両等を用いた独自の輸送ノウハウを有する運送業者であり、業歴は30年を超え、約50名の従業員を抱え地元では知名度の高い企業である。

震災により本社事務所や配送センター、多数の車輛が被災し、荷主である多くの水産加工業も被災した。さらに、水産加工業の運営に必要不可欠な魚市場の全施設も甚大な被害を受けており、当地域での復興には相当の時間を要する状況であった。

A社は他地域に営業所を有しており、ある程度の荷主も確保できていたことから早期の事業再開が可能と判断。A地域及びA社の残存機能の状況から、当面は他地域に本社機能を移転する復興計画を策定した。

復興計画は中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業を活用した車輛の復旧と本社機能の回復及び、新たな荷主の発掘を軸としていたが、震災により多額の債務超過に陥っており、新たな資金調達に課題があった。

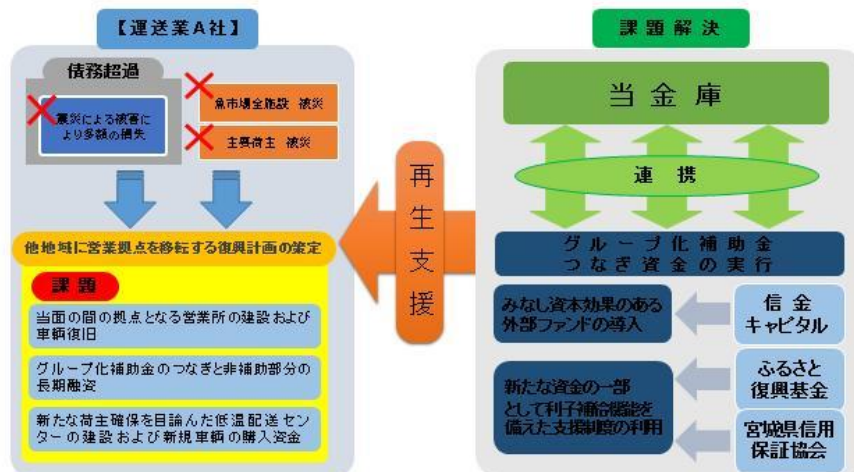
当金庫は、A社の復興は地域の基幹産業の復興と雇用維持に大きく貢献すると判断し支援を決定した。

具体的な取組

A社のニーズは、①当面の間の拠点となる営業所の建設及び車輛の復旧にかかる補助金のつなぎ融資と②非補助部分の長期融資、さらには新たな荷主確保を目論んだ③低温配送センターの建設及び④新規車輛導入資金の調達の4点であった。

そこで、グループ化補助金のつなぎ融資を行うことにより当面の間の拠点となる営業所の建設及び車輛の復旧に対応した。

また、みなし資本効果のある外部ファンドの導入や利子補給機能を備えた融資制度を活用するとともに、A社の復興計画の策定支援も行った。



取組の成果

グループ補助金と補助金受領までのつなぎ融資により、A社復興計画の基礎となる本社機能の回復と車両の復旧が可能となった。

みなし資本効果のある外部ファンドの導入により、当社の大きな課題の一つである債務超過が解消し、新たな資金ニーズへの対応も可能となった。また、上記ファンドの返済は長期間の期日一括返済であったことから、当社資金繰り安定にも大きく貢献した。

新たな資金の供給は、利子補給機能を備えた融資制度を活用することにより、経費圧縮による収益性向上にも繋がり、当社復興にさらに効果的なものとなった。

A社への復興支援は、地域の基幹産業を支える企業の存続と業容拡大、地域雇用の維持に繋がるものとなった。

今後の課題

A社のある地域の水産加工業の復興にはさらに時間を要する状況であることから、他地域での販路開拓となる。さらに、売上の源となる人員（ドライバー）が不足しており、復興計画の大きな課題となる。

人件費や燃料費等の高騰による収益圧迫が懸念される中で、車両の同時期、多数調達により、車両のリプレイス時期が重複することも課題となっている。また、復興計画ではA社にとって新たな運送分野の開拓も含まれており、スキルが不足する中での収益確保も課題となる。



Point | 支援実施のポイント／横展開にあたっての示唆

支援実施のポイント①

複数の外部機関等との連携によるニーズにマッチした支援を実施

支援実施のポイント②

復興支援専門部署によるキメの細かい金融サービスや情報等の提供